

町田市生涯学習センターのあり方見直し方針



町田市生涯学習センター キャラクター



町田市生涯学習センター

《目次》

I	あり方見直し方針検討の背景	・・・	4
II	町田市生涯学習センターの沿革	・・・	5
1	町田市生涯学習センター設立の経緯	・・・	5
2	社会的背景	・・・	6
(1)	社会教育と生涯学習	・・・	6
(2)	近隣自治体の状況	・・・	6
III	現状分析	・・・	8
1	施設・地理的環境	・・・	8
2	利用者数・利用率	・・・	8
3	事業の実績と課題	・・・	8
4	市民の声	・・・	11
(1)	生涯学習センター利用者アンケート結果	・・・	11
(2)	2020年度市政モニターアンケート結果	・・・	11
(3)	ワークショップ「本音で話そう生涯学習センターと未来のこと」	・・・	12
IV	町田市生涯学習センターの課題	・・・	13
V	町田市生涯学習センターの目指す姿	・・・	14
1	市民がいつでもどこでも学ぶための情報を得ることができる環境がある	・・・	14
2	多様な市民が地域や時間の制約なく学んでいる	・・・	14
3	市民が学んだ知識を自身の生活に活かすことができている	・・・	14
VI	町田市生涯学習センターの目指す姿実現のための事業の見直し	・・・	16
1	生涯学習審議会答申	・・・	16
2	利用者意見・市民意見	・・・	17
3	事業の見直し	・・・	18
VII	効率的・効果的な管理運営体制の検討	・・・	20
1	管理運営体制の現状	・・・	20
(1)	機能と業務内容	・・・	20
(2)	施設の特性	・・・	20
(3)	管理運営	・・・	20
2	利用者意見・市民意見	・・・	21
3	管理運営体制の課題	・・・	22
4	生涯学習審議会答申	・・・	22
(1)	民間活力の導入	・・・	22

(2) 効果的・効率的な運営を推進する実行体制の整備	・・・22
5 管理運営体制の見直し	・・・22
(1) 運営手法の見直し	・・・22
(2) 組織体制等の見直し	・・・22
資料編	・・・23
資料1 他自治体における生涯学習に関する施設の設置条例	・・・24
資料2 他自治体における生涯学習センター類似施設の設置状況	・・・26
資料3 他市事例抽出シート	・・・30
資料4 町田市における生涯学習の見取り図	・・・36
資料5 2020年度町田市生涯学習センター事業一覧	・・・40
資料6 利用者アンケート結果	・・・46
資料7 市政モニター結果	・・・70
資料8 ワークショップ報告	・・・82

I あり方見直し方針検討の背景

町田市生涯学習センターは、市民の学習活動を総合的に支援する教育機関として、2012年4月に開館しました。町田市の中心市街地に位置し、市民の学習活動の拠点として、開館以来、多くの市民に親しまれています。また、子どもから高齢者まで、幅広い世代に学習機会を提供するほか、市内外を問わず様々な学習に関する情報の収集・提供、さらには生涯学習に関する計画の策定など、町田市の生涯学習の推進役を担ってきました。

しかしながら、近年の急激な社会環境の変化は市民の学習環境にも大きな影響を与え、テーマや手法、場所や機会など学びに関するニーズが一層多様化しつつあります。開館以来、町田市生涯学習審議会や社会教育委員の会議、生涯学習センター運営協議会から役割や施策の進め方など、その時々に必要な指摘をいただけてきましたが、十分に対応しきれていない経緯があります。

また、新型コロナウイルス感染症の流行は、デジタル環境の急速な拡大やグローバル化進展の契機となりました。生涯学習分野においては、対面を基本とした従来の学習様式に一石を投じるとともに、急速に進むデジタル化を背景にしたデジタルデバイドなどの社会的課題が浮き彫りになりました。

一方、町田市では行政経営上の課題解決に向けた取組をまとめた「町田市5ヵ年計画17-21（町田市経営改革プラン）」や公共施設等の総合的かつ計画的な管理を行うための方針となる「町田市公共施設等総合管理計画（基本計画）」、さらには、その実行計画である「町田市公共施設再編計画」を策定し、市全体で行政サービスの効率化や公共施設の再編に向けた取組を進めています。

「町田市5ヵ年計画17-21（町田市経営改革プラン）」では、2021年度までに町田市生涯学習センターの役割や事業内容を改めて見直すとともに、効率的・効果的な管理運営手法を検討し方向性を決定するとしています。

今回の町田市生涯学習センターのあり方見直しにあたっては、第4期町田市生涯学習審議会から「町田市生涯学習センターに求められる役割について」、第5期町田市生涯学習審議会から「今後の町田市生涯学習センターのあり方について」の2つの答申をいただいています。本方針の検討は、これらの答申を踏まえ、現状や課題を分析し、効率的・効果的な管理運営と将来を見据えた町田市生涯学習センターのあり方について整理を行うものです。

なお、「新たな学校づくり推進計画」の策定や「(仮称)町田市町田駅周辺公共施設再編構想」が2022年3月に策定される予定であることなど、公共施設の再編に向けた新たな動きがあることから、本方針は概ね10年間の視野に入れ、現在の立地で運営することを前提とします。今後の公共施設再編計画の検討状況や町田センタービルの状況変化に併せ、必要に応じ見直しを行います。

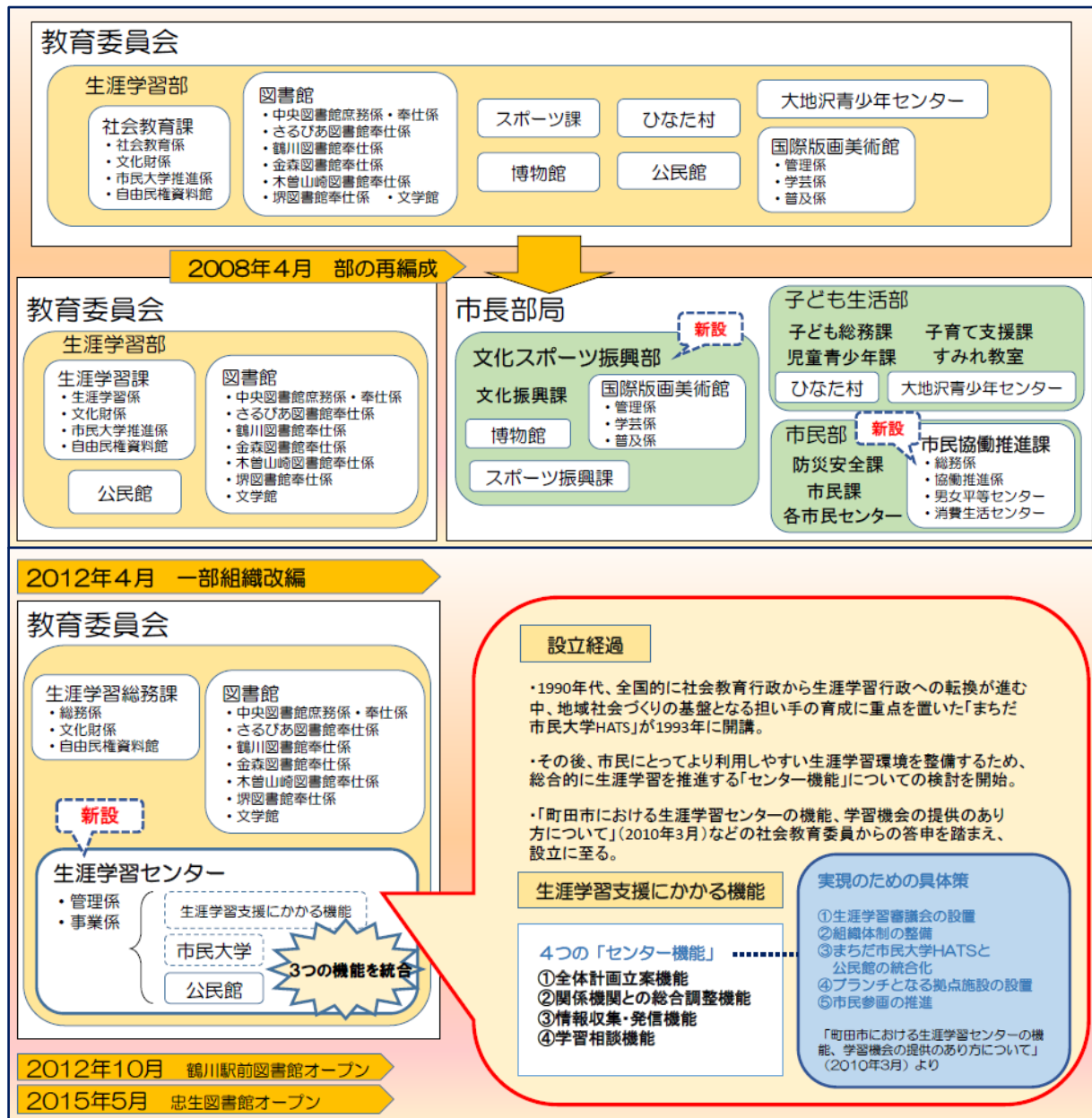
Ⅱ 町田市生涯学習センターの沿革

1 町田市生涯学習センター設立の経緯

2008年、部の再編成によりスポーツ課、国際版画美術館、博物館、児童青少年施設が教育委員会生涯学習部から市長部局に移管されました。2010年には、市民にとってより利用しやすい生涯学習環境を整備することを目指し、総合的に生涯学習を推進するための「センター機能」に関する検討をまとめた「町田市における生涯学習センターの機能、学習機会の提供のあり方について一答申一」が社会教育委員の会議から教育委員会へ提出されました。

この答申に基づき、生涯学習分野で事業実施主体の中心だった「公民館」と「まちだ市民大学HATS」を統合するとともに、各部署で行っていた「生涯学習支援にかかる機能」である『全体計画立案機能』『関係機関との総合調整機能』『情報収集・発信機能』『学習相談機能』を担う組織として2012年、町田市生涯学習センターが設置されました。

【生涯学習組織の改編歴】



2 社会的背景

(1) 社会教育と生涯学習

社会教育とは、「学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び青年に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーションの活動を含む。）」（社会教育法第2条）を指し、教育活動の一つとして捉えられます。

生涯学習とは、学習者の視点から捉えたもので、社会教育における学習のほか、学校教育や家庭教育における学習、組織的に行わない個人的な学習も含む点で、社会教育より広い活動を対象とする概念です。社会教育活動に利用される社会教育施設には、公民館、図書館、博物館などがあります。

1990年の中央教育審議会答申「生涯学習の基盤整備について」で提言された生涯学習センターは都道府県及び市町村に設置されています。市町村の場合、従来の公民館を生涯学習センターに改称している例もあり、センターの機能にも差異があります。また、名称も生涯学習センターに限らず、独自の名称を用いている施設も少なくありません。

生涯学習センターと公民館は生涯学習・社会教育のために設置されている施設で類似した機能を持っていますが、公民館は社会教育法に規定されており、その機能、事業内容が定められています。

一方、生涯学習センターは、生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律（生涯学習振興法）に基づき設置されていますが、具体的な定義はありません。このため、町田市では「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第30条に基づく「その他の教育機関」として、「町田市生涯学習センター条例」により設置しています。他自治体でも条例でその機能や事業内容が定められている場合が多く、自治体により、事業内容に特色が出ています。

また、生涯学習センターについては、近年の生涯学習・社会教育を取り巻く状況の変更に応じて、教育委員会から首長部局への移管や機能の多様化など変遷を見せています。

(2) 近隣自治体の状況

【24頁：資料1、26頁：資料2、30頁：資料3 参照】

23区については、元々公民館の代わりに区民館を設置してきた経緯があり、現在、公民館を設置している自治体はありません。最近では市民協働や文化振興をキーワードとして生涯学習・社会教育の文言を使わずに集会・学習施設が設置されている事例もあり、江東区や世田谷区、葛飾区のように生涯学習・社会教育を謳った施設がない自治体もあります。

一方、多摩26市では公民館活動が盛んだったこともあり、公民館を設置している自治体が多数を占めています。ただし、八王子市、立川市、武蔵野市といった人口規模の大きな自治体や三鷹市、府中市といった23区に近い自治体では生涯学習センターやその他の生涯学習施設へ移行しているところが増えています。

また、神奈川県横浜市、川崎市、大和市には公民館はなく、相模原市は生涯学習センターと公民館を両方設置しています。

①業務内容

生涯学習センターは生涯学習を総合的に支えるステージであり、活発な生涯学習を推進する役割を担うため様々な学習活動ができる多様なスペースを備えているだけでなく、生涯学習に関わる情報の提供や相談に応じる機能のほか、他の施設とのネットワークを進める機能を持つ施設とされています。

一方、公民館は生涯学習を進める上で、もっとも身近にあるステージであり、地域における生涯学習の拠点として、利用者間の情報交換をしたり、グループ・サークルが会合に利用

したり、さまざまな学級や講座などを受講することができる施設とされています。

生涯学習センターでは、公民館で通常行われている事業の実施と施設の貸し出しに加え、情報提供や人材バンク的な制度、ICTなどに力を入れているところが多い傾向にあります。また、「市民向け講座」として、環境、防犯、税など行政の各部署が出前講座を実施している自治体も少なくありません。

その他、特徴的な取組として、板橋区では、「i-youth」というダンスや個人学習のできる若者向けスペースを設置しています。武蔵野市の「武蔵野プレイス」も若者向けに利用ルールを緩く設定した区画を設けており、こうした若者層を意識した運営を行っている施設もあります。

また、横浜市や調布市のように情報提供に特化した運営をしている事例もあります。

②運営形態

生涯学習センターは首長部局に設置されているケースが少なくありません。また、民間活力の導入は公民館よりも進んでいます。形態としては指定管理者制度を導入している施設が多く、講座事業や管理部門の一部事業委託やネーミングライツを導入している事例も見受けられます。

一方、指定管理者制度を導入しても一部事業は直営を維持し、施設を管理者から借用する形で実施している事例もあります。

③全体的な傾向

生涯学習センター及びその類似施設の設置が進み、公民館から生涯学習センターへ移行している状況です。

生涯学習センターの運営形態は直営・委託・指定管理と様々であり、所管も教育委員会、首長部局それぞれ存在しています。また、一つの流れとして、中野区や武蔵野市、大和市など生涯学習施設の集約による複合化が進んでいます。

④注目すべき事例

こうした他自治体の取組の中でも、相模原市における大学教育機関の専門性を活かした学習機会提供（相模原市生涯学習センター）や千代田区における民間と行政の強みを活かした事業分担（九段生涯学習館）、板橋区や武蔵野市の若者が使いやすい施設運用（まなぼーと大原、武蔵野プレイス）などが挙げられます。

また、横浜市では、拠点施設はありませんが、市民センター等を活用した地域展開が行われています。

Ⅲ 現状分析

1 施設・地理的環境

町田市生涯学習センターは中心市街地に立地している町田センタービル内にあり、町田駅から徒歩4分の距離で原町田大通り沿いという、極めて好立地にあります。

町田センタービルは1～5階を民間の商業施設が占め、6～8階を町田市生涯学習センターが占有しています。

定員158名のホールのほか、学習室、調理実習室、美術工芸室、視聴覚室、プレイルーム、音楽室、和室、保育室といった様々な目的に使用できる諸室を設置しており、主催事業の会場のほか、市民団体・サークルの活動場所として広く市民に利用されています。

2 利用者数・利用率

こうした立地の良さもあり、2019年度まで毎年15万人以上が利用し利用率も75%を超え、市の貸出施設としては最も利用率の高い施設となっていました。特に日中は80%を超える利用率となっていました。

しかし、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の休館や利用制限を行ったため、利用人数・利用率ともに大きく落ち込みました。

【町田市生涯学習センター年度別利用状況】

利用区分	2016	2017	2018	2019	2020	
開館日数（日）	347	347	347	319	279	
施設貸出	回数（件）	11,838	11,300	11,341	10,422	5,540
	人数（人）	129,571	114,652	118,288	108,502	46,129
生涯学習センター主催事業	回数（件）	1,872	1,903	2,046	2,075	1,709
	人数（人）	41,235	35,473	41,570	43,360	21,535
他部署主催事業	回数（件）	65	99	137	109	29
	人数（人）	3,771	2,397	5,172	4,306	480
全利用回数合計（件）	13,775	13,302	13,524	12,606	7,278	
全利用人数合計（人）	174,577	152,522	165,030	156,168	68,144	
平均利用率	78%	78%	76%	77%	57%	

3 事業の実績と課題

町田市生涯学習センターでは、設立時に付与された『全体計画立案機能』『関係機関との総合調整機能』『情報収集・発信機能』『学習相談機能』の4つの“生涯学習支援にかかる機能”と、前身の公民館及びまちだ市民大学HATSの『講座・イベント事業実施機能』『施設貸出機能』の6つの機能を担っています。これらの機能に基づき、様々な事業を実施していますが、一方で、市内の様々な主体も生涯学習の取組を行っています。

【36頁：資料4 参照】

①全体計画立案機能

町田市の生涯学習分野の部門計画である「生涯学習推進計画」は、現在、町田市生涯学習センターが策定しています。

しかしながら、「まちだ未来づくりビジョン2040」（策定中）、「町田市教育プラン2019-2023」といった上位計画が存在し、また、「(仮)町田市地域ホッとプラン」や「新・町田市子どもマスタープラン」、「町田市環境マスタープラン」など他部署の計画においても

関連項目があります。これら他の計画との調整も必要となっており、かつ、生涯学習にかかる事業計画を審議する諮問機関である「町田市生涯学習審議会」の事務局は部の総務担当課である生涯学習総務課で担っています。生涯学習総務課との役割の整理について、検討が必要です。

②関係機関との総合調整機能

公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアム（以下、「さがまちコンソーシアム」という。）との連携を軸に市内・周辺の大学等の教育機関との連携を図っていますが、庁内他部署でも「まちだ〇ごと大作戦」や各種ワークショップの開催など市民・団体との連携・協働が盛んになっています。近年では、特に子ども生活部の「町田創造プロジェクト（MSP）」に代表される若者意見を反映させる仕組みに注目が集まっています。

庁外の見組として、町田市社会福祉協議会を中心とした福祉分野のネットワーク化、また、市民協働推進課が2019年に設立した「町田市地域活動サポートオフィス」による地域活動のコーディネーター役としての活動などが挙げられます。

町田市生涯学習センターでは様々な生涯学習機会を提供していますが、多岐に渡る生涯学習にかかる見組を全て一つの施設で行うことは現実的ではありません。市内では多様な担い手が生涯学習分野で活動をしており、これら担い手の連携・調整が重要度を増していくと考えられます。

町田市生涯学習センターで全てを担おうとするのではなく、これら担い手の見組を大きく捉え、町田市の生涯学習を考えていくことが必要です。

③情報収集・発信機能

生涯学習NAV Iや公式ホームページ、Twitterを中心に学習情報を発信しているほか、施設内に情報提供コーナーを設け、ポスター掲示やチラシの配布による情報提供を行っています。

また、図書館や町田市民文学館、国際版画美術館や、町田市民ホール、さらに、こどもセンターなど様々な施設で、同様に情報提供を行っています。

生涯学習NAV Iは、子育て情報、文化情報など分野ごとに集約して情報提供を行っていますが、認知度が高いとはいえません。

庁外組織や民間の情報提供も、施設単位、機関・団体単位で行われているものが主流となっています。

デジタル化の急速な進展により、情報提供の手法としてデジタル技術の更なる活用が求められています。また、施設等主催者単位で発信している生涯学習情報を一元的に入手できる仕組みも必要となっています。

④学習相談機能

学習相談窓口を設け、学びに関する相談に対応しているほか、市民大学や市民提案型事業「講座づくり☆まちチャレ」といった課題解決型の講座を実施しています。また、学びの成果を活かすため「生涯学習ボランティアバンク」という制度を運用しています。

庁内他部署でも福祉部門による介護者養成、子育て部門による保育者養成といった部門ごとの人材育成や各種相談窓口が設けられているほか、環境、防犯、消費生活といった分野では出前講座も行われています。

庁外でも社会福祉協議会や町田新産業創造センター、町田市介護人材開発センターなど分野毎に人材育成の見組が行われています。

ボランティアについては、「まちだサポーターズ」や「学校支援ボランティア」、庁外では社会福祉協議会の「町田ボランティアセンター」といった制度があります。

学びに関するニーズは多様化しており、相談には学びに関する広範な知識とコンシェル

ジュ的なきめ細かい対応が求められています。

一方、学習成果を地域で活かすためには、指導者の情報提供だけではなく、指導者と学習者のマッチングに力を入れていく必要があります。また、学びの輪の拡充のためには、現在、庁内外の複数組織がそれぞれ独自に運営している学びに関するボランティア登録制度について、情報共有などの連携も求められています。

⑤講座・イベント事業実施機能

【40頁：資料5 参照】

2020年度は新型コロナウイルスの影響で、67件の事業の実施に留まっていますが、例年90件前後の事業を主催してきました。

内容もコンサートや趣味・教養系の講座から、市民大学や市民提案型事業「講座づくり☆まちチャレ」といった課題解決型講座、高齢者向けのことぶき大学、障がいを持った方向けの障がい者青年学級、子育て世代向けの家庭教育学級、義務教育相当の学び直しの機会を提供する「まなびテラス」など多岐に渡っています。

一方、庁内他部署でもそれぞれの対象向けに講座を実施しているほか、学習の機会を提供しています。

こうした状況の中、例えば「子どもの読み聞かせ」といったテーマでは、「子ども」を担当している子ども生活部と「読書」を担当している図書館がそれぞれで実施するといった事業の重複も生じています。

逆に、事業数が少ない分野もあります。「デジタルデバインド」などの新たに認識された社会的課題です。

庁外に目を向けると、町田市社会福祉協議会や町田国際交流センター、町田市シルバー人材センターなどの庁外組織や市民団体の取組には、「外国人向けの学習」、「ひきこもり」、「不登校」、「高齢者向けデジタルデバインド」などに対応したものがあります。また、「町田産業創造センター」や「ハローワーク」、「東京しごとセンター」など個別の経済活動に特化した組織もあります。

講座・イベント事業の実施には多くの人的リソースが割かれるため、実施にあたっては、他部署・他機関との重複を整理し、既に多数の取組が行われている分野は情報収集・提供に主眼を置くといった棲み分けが必要です。

⑥施設貸出機能

町田市では施設案内・予約システムにより、「集会・学習施設」、「文化施設」、「スポーツ施設」の3グループに分けて統一的な施設貸出を行っています。町田市生涯学習センターは市民センター、コミュニティセンターなどが属する「集会・学習施設」として最高の利用率で、例年75%を超える利用率があります。

このほか学校開放として、特別教室開放を4校、校庭・体育館等のスポーツ開放を54校で実施しています。特別教室開放は、例年10%程度の低い利用率に留まっています。

また、市内では施設貸出以外に「場の提供」として「子どもセンター」・「子どもクラブ」などの子ども施設など、占有はできないものの対象者が自由に使える施設もあります。民間でも独自に施設の貸し出しを行っていたり、中心市街地ではレンタルスペースもあります。

施設貸出においては、引き続き中心市街地の生涯学習拠点として、市民向け施設貸出の拡充に努めるとともに、施設貸出の飽和を避けるため、他の集会・学習施設の紹介も行っていく必要があります。

また、現在の施設名称については、「町田市生涯学習センター」と、貸出施設部分の「まちだ中央公民館」という2つの名称が混在しており、市民から見てわかりにくさが生じています。

4 市民の声

町田市生涯学習センターのあり方見直しを検討するにあたり、町田市生涯学習センターでは2020年度から、町田市生涯学習センター利用者アンケート（以下、「利用者アンケート」と言う。）、町田市市政モニター（以下、「市政モニター」と言う。）、ワークショップといった手法で市民意見の聴取を行ってきました。

（1）利用者アンケート結果

【46頁：資料6 参照】

2020年10月に実施したアンケートで、対象は町田市生涯学習センター利用者、図書館・文学館利用者、市民センター利用者です。市民センター利用者には一部行政窓口利用者も含まれますが、基本的に集会・学習施設を利用している方を対象としたもので、537件の回答がありました。

【主な傾向】

- ◆ 8割の方が町田市生涯学習センターを知っていて、6割が利用したことがある。町田市生涯学習センターから離れた施設の利用者ほど、認知率、利用率は低下していく。
- ◆ 利用内容は事業参加と施設貸出・フリースペースの利用が中心である。
- ◆ 利用頻度は月1～数回利用する方が多数を占めている。
- ◆ 利用者の6割を70歳以上が占めている。回答者も7割を60歳以上が占めている。
- ◆ 立地の良さと講座・イベント内容、貸出施設設備が評価されている。
- ◆ 今後の重点施策として、入門的講座、支援の必要な方向けの学習支援、地域での課題解決に繋がる講座の実施要望が多くあった。
- ◆ 運営形態は、サービスが低下しないのであれば市でも民間でも運営主体に拘らない意見が最多となっている。
- ◆ 自由意見の記入は121件あり、市民ニーズを取り入れた事業実施、講座の地域展開、施設の認知度向上、デジタル化への対応を要望する声が多くあった。

（2）市政モニター結果

【70頁：資料7 参照】

2020年12月に実施したモニターアンケートで、対象は町田市の人口比で性別、年齢別に抽出した200人です。町田市生涯学習センターに関するモニターアンケートでは、154件の回答がありました。町田市生涯学習センターに関するアンケートは、利用者アンケートと同内容で実施しました。

【主な傾向】

- ◆ 6割の方が町田市生涯学習センターを知っているが、利用したことのある方は2割。
- ◆ 利用頻度も数年に1回以下が最多となっている。
- ◆ 立地の良さと講座・イベント内容の評価が高いのは利用者アンケートと同様だが、商業施設との複合施設である点や情報が集積している点も評価されている。
- ◆ 今後の重点施策として、入門的講座や支援の必要な方向けの学習支援の実施要望が多いのは利用者アンケートと同様だが、オンライン化の実施要望も多くあった。
- ◆ 運営形態は、サービスの向上を前提に民間が運営した方がよいが最多となっている。
- ◆ 回答者は20歳～60歳が65%、60歳以上が35%。
- ◆ 自由意見の記入は71件あり、講座内容の提案の他、施設のPR・認知度の向上、高齢者施設のイメージ、同種施設の地元設置などの意見・要望が多くあった。他に仕事に役立つ講座の実施や講座受講者の市への就職など実益のある講座実施を望む声もあった。

(3) ワークショップ

【82頁：資料8 参照】

2021年2月から4月にかけて、「本音で話そう生涯学習センターと未来のこと」と題し、若者層に特化したワークショップを3回実施しました。

「若者の実際の生活に即した課題」として例えば、デジタル、メイク、性教育、一人暮らし、ゲーム、お金、若者が利用できる行政サービスについてなど、具体的・実利的な講座の提案も多くありました。

また、フリーWi-Fi等デジタル環境の整備は喫緊の課題ですが、世代に関わらず、顔の見える関係性、アナログ的な手法も必要との声がありました。

①町田創造プロジェクト (MSP)

町田市内在住、在学、在勤の高校生世代からなる若者グループで、子どもセンターの利用者を中心に結成され、若者の意見を市政に反映させるための活動を行っています。参加者は、市内の高校生・大学生世代5人です。

【主な意見】

- ◆若者向けオンライン・パソコン講座を開催してほしい。デジタルデバイドの問題は高齢者の問題と思われがちだが、スマホ世代の若年層にも発生している。
- ◆性教育講座・一人暮らし講座・メイク講座など、学校で教えてくれないが社会で必要な講座を開催してほしい。学校で真面目にやっていた子ほどギャップに苦しんでいる。
- ◆若者にとって、もはや電話は最もポピュラーな通信手段ではなくなっている。
- ◆若者もデジタル一辺倒ではなく、信頼できる人との直接対話を求めている。

②さがまち学生Club

町田市・相模原市に所在する大学の大学生を中心とした「地域活性化」を目的とした学生団体で、さがまちコンソーシアムが事務局を務めており、例年、町田市生涯学習センターの学生生活報告会にも参加しています。参加者は、地域の大学生5人です。

【主な意見】

- ◆子どもセンター・子どもクラブは18歳までの利用なので、19歳以上の若者が学習等で利用できる無料施設は市内では図書館と生涯学習センターしかない。
- ◆施設の認知度の低さと高齢者に偏重しているイメージがある。
- ◆イメージが堅い。若者向けにはある程度のゆるさや軽さが必要だと思う。
- ◆若者の集まる条件として、Wi-Fi環境、自由に使える電源、カフェ、長居できるスペースが必要だと思う。
- ◆子どもや学生への情報提供は、学校を通じた紙媒体の配布の方が効果的なのではないか。
- ◆「出会いが生まれる場」への需要は若者にもあるが、単に「出会う」のではなく、「一つの目的のために集うことで出会う」ことを要望している。
- ◆お笑い芸人ライブやカードゲームなど、若者が興味のある講座を実施してほしい。

③へりぽーと

法政大学ボランティアセンター出身者を中心とする地域活動グループで学生・社会人が半々くらいの割合で在席しています。町田市生涯学習センターの学生生活報告会にも参加していますが、公的機関の関与がない純粋な若者の市民団体です。参加者は、地域の大学生・社会人6人です。

【主な意見】

- ◆利用者が高齢者に偏重している。
- ◆学生で市の施設の催しに参加していると「変わっている」といわれる。
- ◆無料のフリースペースの存在は重要。Wi-Fi環境の整備などフリースペースを充実してほしい。
- ◆町田おすすめポイント講座、お金の講座、若者向け支援講座など若者にとって実利的な講座を開催してほしい。
- ◆顔見知りがいれば、講座に出てみたいという思いはある。
- ◆単なる世代間の交流ではなく、同じ価値観を持った人たちと繋がりたい。
- ◆活動報告会など学生側から発表する機会だけでなく、若者が学ぶ機会も欲しい。

IV 町田市生涯学習センターの課題

町田市生涯学習センターの現状及び市民意見、町田市生涯学習審議会答申を踏まえ、町田市生涯学習センターの課題を次の6つに整理しました。

町田市生涯学習センターは、まちだ中央公民館を核にセンター機能を担うための施設として、組織を再編し設立したのですが、以下の課題は「公民館」から「生涯学習センター」への移行が十分ではないことを示しています。

「公民館」に留まらず「生涯学習センター」の使命を果たすことが求められています。

- 1 生涯学習支援にかかる総合調整機能の役割をしっかりと担うための事業の整理を行う必要がある。
- 2 実施事業だけではなく、関係機関を含めた生涯学習情報を収集・整理し、多様な発信ができるようなハブ機能を担う必要がある。
- 3 学びに出会う機会を増やすため、デジタル化の推進やアウトリーチ事業のさらなる展開など、多様な学習機会を充実させる必要がある。
- 4 学びの入口を提供する施設として認知度を高めることで、多くの市民に親しみを持ってもらう必要がある。
- 5 市民が豊かな人生を送ることができるよう、社会的課題の解消につながる学びの機会を提供する必要がある。
- 6 市民が、学んだ知識を活かすことができる機会を充実させる必要がある。

V 町田市生涯学習センターの目指す姿

「まちだ未来づくりビジョン2040」（策定中）に基づき、また、第5期町田市生涯学習審議会答申「今後の町田市生涯学習センターのあり方について」でまとめていただいたことから、町田市生涯学習センターの運営理念を次のように定めます。

運営理念：学びに出会う機会と学習成果をいかす機会を提供するための中核施設を担います

町田市生涯学習センターの取組だけでなく、市内の生涯学習活動全体を視野に入れて学びの循環を捉え、市民の活動の輪を広げ、いくつになっても自分の楽しみが見つかるまちを実現します。

そして、この運営理念を実現するため、次の3つを目指す姿として定めます。

1 市民がいつでもどこでも学ぶための情報を得ることができる環境がある

生涯学習分野では自治体や教育機関、民間が様々な取組を行っています。行政の提供する学びは敷居が低い反面、専門性では教育機関や民間の取組に劣る傾向があります。行政の提供する学びは学びに出会うための「きっかけづくり」を重視していきます。

学びに出会い、「学ぶ」楽しさを知ってもらった方には、教育機関や民間が実施する多彩で専門的な学びを紹介していきます。このため、民間も含めた生涯学習情報の収集・提供を行う生涯学習ハブ機能を強化していきます

一方で、障がいや経済状況など様々な事由で、「学ぶ」ことから取り残されている方もいます。急速に進むデジタル化や外国人住民の増加など社会は複雑化しており、社会のインフラとして「学び」が必要な場面は増えています。誰もが社会から取り残されないための「学び」の機会を提供していきます。

2 多様な市民が地域や時間の制約なく学んでいる

「高齢者の施設」「特定の人達が使う施設」といったイメージを払拭し、世代や性別に関係なく様々な市民に学びの拠点として活用される施設を目指します。

また、市内に生涯学習センターが1館であるため、町田市生涯学習センターから離れた地域では施設の認知度も低い傾向があります。しかし、市内には市民センター・コミュニティセンターを中心とする集会・学習施設や、生涯学習施設である図書館も各地域に展開されています。「町田市市民センター等の未来ビジョン」では学びの拠点としての機能も謳われており、こうした地域施設を活用し、講座・イベント事業の地域展開を増やすことにより、地域での学習機会の増加に努めます。

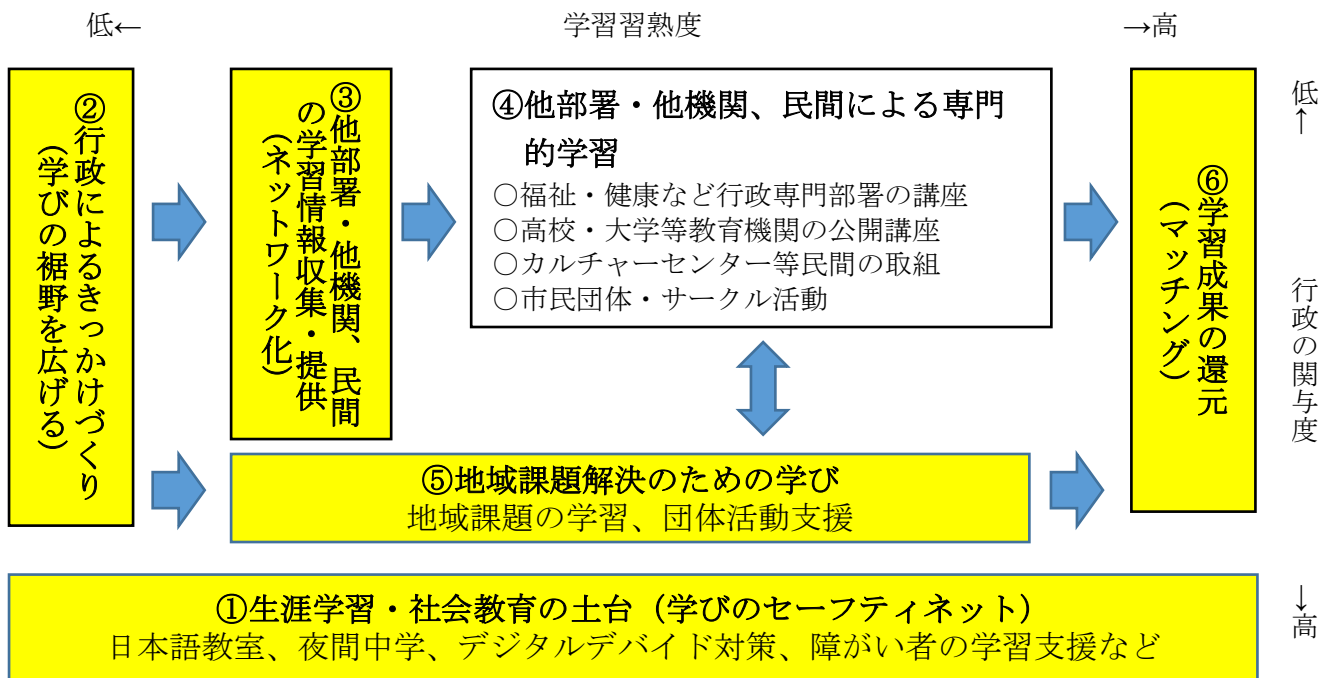
このほか、講座のオンライン化などデジタル技術の活用や、町田市生涯学習センター以外の事業の情報提供により、市民がいつでもどこでも学べる環境を構築します。

施設貸出についても、事業の整理やアウトリーチの推進により、町田市生涯学習センター施設における市民利用枠の拡充に努めるとともに、アウトリーチ会場となる集会・学習施設のPRを行い、市民の学習活動についても地域展開の機運を醸成します。

3 市民が学んだ知識を自身の生活に活かすことができている

市民が学んだ成果を活かし、より充実した人生設計を行えるよう、必要な知識や技能を習得できる機会を提供します。また、学びを深めた方と学びたい方のマッチングを重視し、学んだ成果をいかせる機会を拡充することで、市民同士の学び合いの輪を広げます。

《町田市生涯学習センターが提供する“学び”の概念図》



VI 町田市生涯学習センターの目指す姿実現のための事業の見直し

目指す姿の実現のため、今後「(仮) 町田市生涯学習センターあり方見直し方針実行計画」を策定し、具体的な事業の整理・見直しを行います。見直しにあたっては、これまでの答申や市民意見を踏まえ、以下の方向性で取り組むものとします。

1 生涯学習審議会答申

(1) 第4期町田市生涯学習審議会答申「町田市生涯学習センターに求められる役割について」

2020年3月の第4期町田市生涯学習審議会答申では、町田市生涯学習センターの役割として、以下の4点が挙げられました。

①誰もが学べる環境をつくる

市民一人ひとりが自分にあった学習活動を行える環境を整備することが、生涯学習行政が果たすべき最も重要な役割である。

②課題解決を支援する

時代と共に複雑化・多様化する地域課題を解決するためには、市民一人ひとりの学びや地域住民同士の学び合いが不可欠である。そのため、地域課題を教育や学習の視点で捉え直し、解決に向けた学習を支援していく必要がある。

③学びの裾野を広げる

生涯学習は、日常生活の充実や心の豊かさにつながることを期待できるほか、生活上の課題解決や地域づくりなどの場面でも必要不可欠である。そのため、より多くの人々の生涯学習への関心を高め、学ぶ楽しさを伝えていくことで、一人ひとりの継続的な学習につなげていくことが重要である。

④学びのネットワークづくりを促進する

市民の学習に関するニーズは多様化しており、それらの全てに町田市生涯学習センターで応えることはできない。したがって、市民への学習支援をより効果的に展開するためには、町田市生涯学習センターが様々な主体や取組をつなぐ役割を担う必要がある。

(2) 第5期町田市生涯学習審議会答申「今後の町田市生涯学習センターのあり方について」

2021年11月の第5期町田市生涯学習審議会答申では、町田市生涯学習センターが上記の4つの役割を担い、将来を見据えながら時代の変化に対応していけるよう、目指すべき姿や効率的・効果的な管理運営手法について下記の4項目にまとめられています。

①事業の整理、及びリソースの再配分

今後重点を置く事業を明確にしたうえで、事業の整理を行い、生み出したリソースを再配分すること。全体コーディネートについて再認識すること。”ハブ機能”をしっかりと担うこと。

②デジタル技術の活用と地域の学びの推進

場所や時間の制約なく学べる環境を充実させるため、積極的にデジタル化を推進すること。学ぶことに支援を必要としている方に向けて、身近な地域での学びを提供するなどの配慮をすること。

③社会的課題への迅速な対応

新たな社会的課題に迅速に対応するため、事業内容の精査や新設及び廃止の検討を確実に
行う体制を整えること。

④名称の整理

町田市生涯学習センターが設立された際に重点を置くべきとされた「生涯学習支援にかか
る機能」の充実を確実に行うことを示すため、名称の整理を行うこと。認知度の向上及び施
設への愛着の形成につながるよう工夫すること。

2 利用者意見・市民意見

「Ⅲ－4 市民の声」でまとめたとおり、多くの意見が寄せられました。事業の見直しに
関する意見を抜粋します。

- ◆何をしているのかわからないというのが率直な感想。HPのイベント情報は、一目見て
パッと分かるような記載でもないので、もう少し分かりやすい方がいい。
- ◆子育て世代には町田駅まで行くのは大変で利用しようと思わない。規模は小さくていい
から分室のようなものが複数あると利用しやすい。オンラインを活用して家でイベント
や学習に参加できるようになったら嬉しい！！
- ◆町田市生涯学習センターのHPは、固いイメージで怖そう。ポップに見える化すること
が必要。
- ◆高齢者を対象とするサービスも残しつつ、既存のものを峻別した上で、より幅広い世代
に訴求するサービスを検討しなくては良い取組も先細るだけ。
- ◆地域活性化を主眼として、リーダーの講演を期待したい。そこから人とのネットワーク
へ発展させて、より多くの活動へと結びつけてほしい。
- ◆限られた人達しか利用していないように見える。
- ◆学校で教えてくれないけど、社会人に必要なことは多いので、そういうことを聞ける場
がほしい。一人暮らしやパソコンの使い方、化粧はその一例。
- ◆町田市生涯学習センターは『出会いが生まれる場』であって欲しい。
- ◆名称だけで何が出来る施設か想像がつかない。生涯学習センターでは、高齢者向けのカ
ルチャーセンターに聞こえる。思いきって全く違う名前にし、その施設の説明をしま
りし、市民に浸透させた方が、全世代が利用する気になる。

3 事業の見直し

生涯学習審議会の答申やいただいた市民意見を踏まえ、「目指す姿を実現する」ために、以下の点で各事業の整理・見直しを実施します。これらの見直しは、今後策定する「(仮)町田市生涯学習センターあり方見直し方針実行計画」として、町田市生涯学習センター運営協議会の意見を伺いながら具体的内容を検討していきます。

目指す姿①「市民がいつでもどこでも学ぶための情報を得ることができる環境がある」を叶えるための取組

○機能や事業の見直しと再配分

学びに出会うための「きっかけづくり」に重点を置いた事業展開を見据え、生涯学習センターが担うべき機能や事業を見直し、整理します。その上で、設立時に付与された「生涯学習支援にかかる機能」を再確認し、この機能を担うための予算や人などのリソースを再配分します。

○生涯学習情報の体系化・ネットワークの構築

行政だけでなく、大学等の教育機関や公益団体、市民団体や民間企業など多様な主体により展開されている市全域の生涯学習の全体像を把握します。そのうえで、生涯学習情報の体系化と関係機関とのネットワーク構築を進めることでハブ機能を強化し、市民が学ぶための環境づくりを行います。

○情報発信機能におけるデジタル化の推進

体系化した情報の発信にあたっては、デジタル化を推進し、いつでも、どこでも、学ぶための情報を得られるようにします。

○学習相談におけるコンシェルジュ的機能の強化

体系化した情報を基に、コンシェルジュ的なきめ細かい学習相談を行います。

○要支援者への学習支援

誰もが平等に学べる環境をつくるため、学びに支援が必要な方向けの学習支援も継続して実施していきます。

目指す姿②「多様な市民が地域や時間の制約なく、学んでいる」を叶えるための取組

○若者層や働く世代向けの取組の強化

若者層や働く世代を意識した講座展開や、施設貸出における若者向け平日夜間減免制度の導入などの利用促進策を展開するとともに若者層に向けた情報提供・アプローチを実施します。

○地域や時間の制約なく学べる環境づくり

市民センター、図書館等を利用した講座のアウトリーチの推進やオンライン化の推進により、地域や時間の制約なく学べる環境づくりを行います。

また、アウトリーチの推進により、会場となる地域施設の認知度向上を図り、各地域における市民の学習活動の活発化を目指します。さらに、活動拠点を地域に移す市民が増えることで、生涯学習センターの貸出枠を生み出し、学習活動する市民の増加につなげます。

○施設名の一本化による認知度向上

施設名をわかりやすく、愛着の持てる名称に一本化することで、幅広い市民からの認知度向上を目指します。

目指す姿③「市民が学んだ知識を自身の生活に活かすことができている」を叶えるための取組

○社会的課題の解消につながる学びの提供

近年、急激に社会のデジタル化が進んだことによりデジタルデバインドという課題が顕著化しましたが、他にも環境問題、貧困問題、少子高齢化、介護・福祉、子育て支援、地域おこし、外国籍市民の増加など様々な社会的課題があります。

生涯学習センターが課題に関する学習の機会を提供していくことで、解消に向けた取組を支援していきます。

○学習成果を活かせる場の拡充

生涯学習ボランティアバンクへのマッチング機能の強化や主催事業のサポーター制度など、学習成果を活かせる場の拡充を図り、市民が学んだことを活かせる取組を進めます。

○団体支援・育成の仕組みの再構築

団体支援・育成の仕組みを見直し、公平でわかりやすい仕組みを構築します。

Ⅶ 効率的・効果的な管理運営体制の検討

「Ⅵ 町田市生涯学習センターの役割や事業内容の見直し」では、主に町田市生涯学習センターの機能や目指す姿、事業内容について言及してきましたが、本章では目指す姿を効率的・効果的に実現するための施設の管理運営体制について言及します。

「町田市5ヵ年計画17-21（町田市経営改革プラン）」では、公共施設のサービス改革として、担うべき役割、実施すべき事業、管理運営手法など公共施設における行政サービスのあり方を見直し、機能・コストを最適化し、持続可能な行政経営を推進することが求められています。町田市生涯学習センターについても、役割や事業内容の検討及び民間活力導入を含めた、効率的・効果的な管理運営手法を検討することとしています。

1 管理運営体制の現状

(1) 機能と業務内容

前述のとおり、町田市生涯学習センターは、町田市の生涯学習の中心的役割を果たす施設として、まちだ中央公民館が従来行っていた講座・イベント事業の実施及び施設貸出に加え、「生涯学習支援にかかる機能」である『1 全体計画立案機能』『2 関係機関との総合調整機能』『3 情報収集・発信機能』『4 学習相談機能』を担う組織として設立されています。

しかしながら、「まちだ未来づくりビジョン2040」（策定中）、「町田市教育プラン2019-2023」といった上位計画との調整や生涯学習にかかる総務機能が教育委員会事務局にあることもあり、出先機関である町田市生涯学習センターが全体計画立案機能を持つ難しさも明らかになってきました。

また、実施機関を母体としているため、事業内容が講座・イベント事業に偏重しており、関係機関との総合調整や情報収集・発信、学習相談といった生涯学習支援機能が十分に発揮できていない点も、町田市生涯学習審議会などでご意見をいただいているところです。

生涯学習における施策の展開には、一定の専門性が要求されます。また、地域の生涯学習情報・資源の把握・活用の観点からは、専門性のある集団が継続して事業を担うことで、市民サービスの向上につながります。専門性・継続性の点で、現在の異動を前提とした市の職員体制、単年度任用を基本とする会計年度任用職員制度では効果的ではありません。

(2) 施設の特性

町田市生涯学習センターは中心市街地の好立地にあり、施設規模も他市の同種施設と比較して遜色のない規模があります。

一方で、民間との複合施設であるため、運営に際し町田センタービル管理組合を通じ共同所有者との調整が必要になるという特殊性があります。

(3) 管理運営

現在、町田市生涯学習センターは、メンテナンスのため月1日の休館日を設けていますが、それ以外の日は9時から22時まで毎日開館しています（年末年始を除く）。

管理運営は市の直営で行っており、施設貸出受付業務等一部業務を民間に委託しています。また、建物全体の管理運営は町田センタービル管理組合が行っており、町田市も理事としてビル全体の管理運営に関わっています。

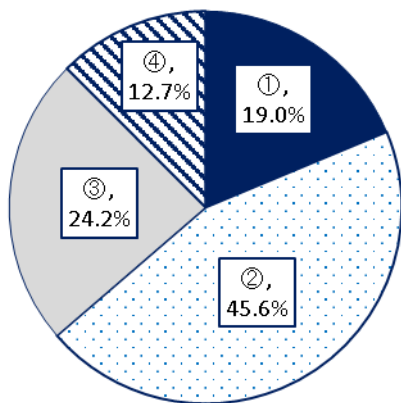
2 利用者意見・市民意見

利用者アンケートでは「サービスが低下しないなら市でも民間でもいい」が45.6%で、「市が直接、管理運営した方がいい」が24.2%でした。市政モニターでは「サービスの向上と運営の効率化につながるのならば、民間に任せた方がいい」が41.6%、「サービスが低下しないなら市でも民間でもいい」が37%でした。

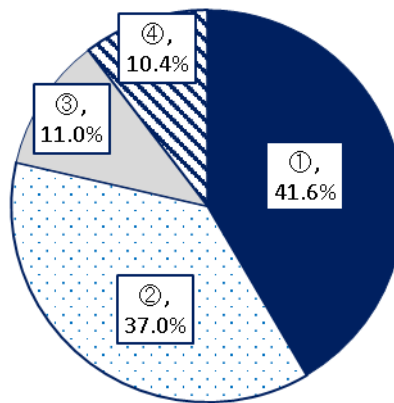
自由意見では、「市も一定の関与を維持しつつ民間に任せた方がいい。」「行政と民間が相互に補えるサービスを提供してほしい」（利用者アンケート）「民間に任せて上手に宣伝、運営してもらった方がいい」、「民間に管理させることで時代に沿った新たなサービスを期待」、「民間企業、大学ともどんどん協力して、内容を充実していただきたい」（市政モニター）といった意見や、「市民・行政・事業者が協働して町田らしい新たな価値を創造できる仕組み検討すべき」（審議会意見）など施設運営に市、地域・市民、民間の協働を求める声がありました。

一方で、「片寄った事業や有料事業が増える」、「民間に移行して使用料が上がるなら市で運営が良い」、「市民の学習は直営、専門従事者において、しっかり提供してほしい」（利用者アンケート）などの意見もありました。

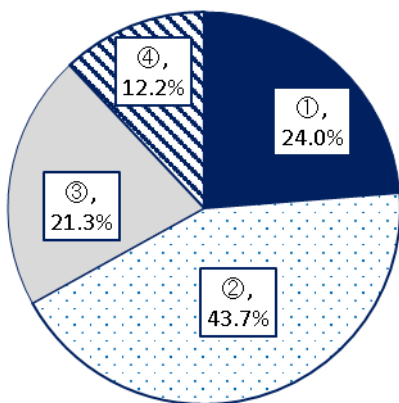
＜利用者アンケート結果＞



＜市政モニター結果＞



＜利用者アンケート及び市政モニター結果合計＞



＜凡例＞

- ①サービスの向上と運営の効率化につながるのならば、民間に任せた方がいい
- ②サービスが低下しないなら市でも民間でもいい
- ③市が直接、管理運営した方がいい
- ④分からない・未回答

3 管理運営体制の課題

管理運営体制の現状、利用者意見、市民意見を踏まえ、管理運営体制の課題を次の2つに整理しました。

- (1) 生涯学習に関する専門性を備え、柔軟な勤務体制や臨機応変な支出が可能な運営を導入する必要がある
- (2) 見直しを進めるための実行体制を整える必要がある

4 生涯学習審議会答申

(1) 民間活力の導入

“行政でなければ担えない機能”と“民間のノウハウが活かせる機能”を整理した上で、後者については民間活力を導入していくこと。

<民間活力導入の留意点>

- ◆町田市生涯学習センターの役割を十分に理解できる事業者を選定すること。
- ◆民間のノウハウを十分に発揮し、専門的な知識をいかしてもらうため、事業者からの提案を採用する仕組みを設けること。
- ◆導入後は、町田市生涯学習センターの運営理念に沿っているか、新たな価値を創造できているかなど、チェックする機能を設けること。
- ◆市民・行政・事業者が協働して町田らしい新たな価値を創造できる仕組みを検討すること。

(2) 効率的・効果的な運営を推進する実行体制の整備

実行計画の作成や、生涯学習組織の改編を行うなど、確実に見直しを進めること。

5 管理運営体制の見直し

生涯学習施策の推進には、生涯学習情報・資源の把握と活用が不可欠であり、情報の蓄積と活用の観点からは、町田市生涯学習センターの業務は直営・民間問わず一括して専門性のある集団が担うのが効果的です。

管理運営体制については、次の方向性に基づき、今後策定する「(仮)町田市生涯学習センターあり方見直し方針実行計画」において、詳細を定めます。

(1) 運営手法の見直し

- 効率的・効果的な管理運営体制を目指すにあたっては、町田市生涯学習審議会答申にあるように、民間活力の導入について、「行政でなければ担えない機能」と「民間のノウハウが活かせる機能」を整理します。
- 民間活力の導入は段階的に、効果を検証しながら実施していきます。
- 民間活力導入の第一歩として、公益性・地域性のある団体を念頭に一部事業へ民間活力の導入を行い、その効果を検証後、導入事業の拡大や指定管理者制度の導入を検討するものとします。

(2) 組織体制等の見直し

- 『全体計画立案機能』を教育委員会事務局（生涯学習総務課）に移管し、市全体としての計画立案機能を強化します。
- 生涯学習センター運営協議会などの外部意見を伺う機会を見直し、事業内容に市民意見を反映する機会を拡充します。